

SSKP 自立生活センター・小平 通信

生活を豊かに彩る「ゆにーく ゆあらいふ！」

ゆにーく your らいふ

2003年3月号



～目次～

☆写真：単発ILP カラオケより

- P. 2 単発自立生活プログラム「カラオケ」
- P. 3 小金井南小学校講演報告
- P. 5 第6回DPI世界会議・札幌大会報告
- P. 7 ふとした瞬間…その①“新連載”
- P. 9 私と障害と家族…その①“新連載”
- P. 10 私が見つけたバリアフリー～PART2～
- P. 11 私達の目指すもの—介護者の皆さんへ
- P. 14 NEW FACE紹介
- P. 17 介助者紹介
- P. 20 CIL・小平、活動報告（平成14年8月・9月・10月・11月・12月・15年1月）
- P. 26 障害スタッフ プロフィール
- P. 27 会員募集のお知らせ・編集後記・地図
- P. 28 サービスのご案内

単発自立生活プログラム「カラオケ」

去る8月29日、お楽しみILとして、新宿のシダックスでカラオケを行いました。なぜこのシダックスにしたかということ、まず一つは、花小金井からの電車の乗り継ぎがなく楽に行けるということ。二つめは館内に障害者用のトイレがあること。三つめは、出入り口に簡易スロープがあることです。このスロープは私達がはじめて利用した時に、出入り口に段差があり、電動車椅子では上がりず苦労したため、店員に「スロープをつけることは出来ませんか？」と言ったのちにつけられたものです。

カラオケが始まり、最初のうちはみなさん遠慮していたのかしーんとしていました。しかし一人歌い出すと演歌からポップスまで幅広く歌っていて、車椅子を前後に動かして踊ったり楽器を使ってリズムをとっている人もいました。特に盛り上がった歌が、ピンクレディーの『UFO』『おどるポンポコリン』『おさかな天国』など、楽しそうに何度もくり返し、みなさん懐かしそうに歌っていました。本当にみなさん歌が好きそうでマイクを離さない光景も見られ予約していた3時間はあっという間に過ぎてしまい、物足りなさそうな人もいました。

私も友達とカラオケに行ったりしますが、こんなに大勢でにぎやかにやったことはないので、すごく楽しく過ごせました。でもリーダーとしては盛り上げ役がまだまだ不十分だったので、そこはもう少し頑張りどころだと感じました。

参加者の中には「普段はあまり外出しない」「カラオケには来たことがない」という人もいたりして少し驚きました。

このようなILに参加していく中で、皆さんが外出の楽しみを感じてもらえたらいいと思います。そのためにも私自身がいろいろと考えて、楽しい企画をみなさんに提供出来るように頑張りたいと思いますので、みなさんその時はぜひ参加してください。

(大淵)



写真：左 松田さん 右 山崎さん

小金井南小学校 講演報告

去る10月8日(火)、小金井南小学校(以下南小)にて講演を行いました。当日は、今にも降り出しそうな重たい曇り空でしたが、そんな天気とは裏腹に元気いっぱい的小学6年生の皆々様に集まって頂きました。CIL・小平からは障害スタッフ4名、健常スタッフ2名。南小からは、教職員2名、生徒64名が参加されました。

午前と午後で、1クラス32名ずつを2回行い、スタートは南小近くの公園からでした。内容としましては、CIL・小平側の自己紹介から始まり、健常者スタッフによる車椅子の各部分(ブレーキ、ステップ、クラッチバー等)の説明及び畳み方の説明。その後、6班に分かれ(1班5~6人)、それぞれの班にCIL・小平のスタッフが付き添い、社会福祉協議会から借りてきた車椅子に押し手と乗り手に分かれ、公園を後にしました。コースは、公園→東八道路→南小で、時間にして往復1時間弱かかりました。普通に行けば、30分もかからないコースなのですが、CIL・小平のスタッフを入れて40人近くが連なって行くわけですから、時間もかかりますよね。

そして最後に体育館で、質疑応答を含めた講義をし、終了しました。

講演2週間前、私は打ち合わせに南小に行きました。着いてすぐに感じたのは、段差の多いこと。校舎に入るとき、体育館に行くとき、至る所に階段や段差がありました。考えてみれば、私は養護学校以外にはこれと行った学校を知らず(文化祭等で近隣の大学には行ったことはあるが)、これじゃ車椅子では通えないと感じたのと同時に、校舎内での車椅子体験は困難だなと思いました。

さて、先生方からの依頼では、

- ・子供たち(健常者)と私たち(障害者)が同じところ、違うところ。
- ・子供たち(健常者)が私たち(障害者)に出来ること。
- ・私たち(障害者)が子供たち(健常者)に伝えたいこと。

を話して欲しいということでした。

そこで、私がまず一番に思ったのは“話が通じるのか?”、ということでした。というのも、自分で言うのもなんですが、小学生の頃の私はそんな障害者だの健常者だの考えたこともなかったし、難しい話は嫌いでした。まして13年も昔のことなど殆ど覚えていないため、“小学生”というのは未知の生物(言葉が悪くてすいません)だったのです。

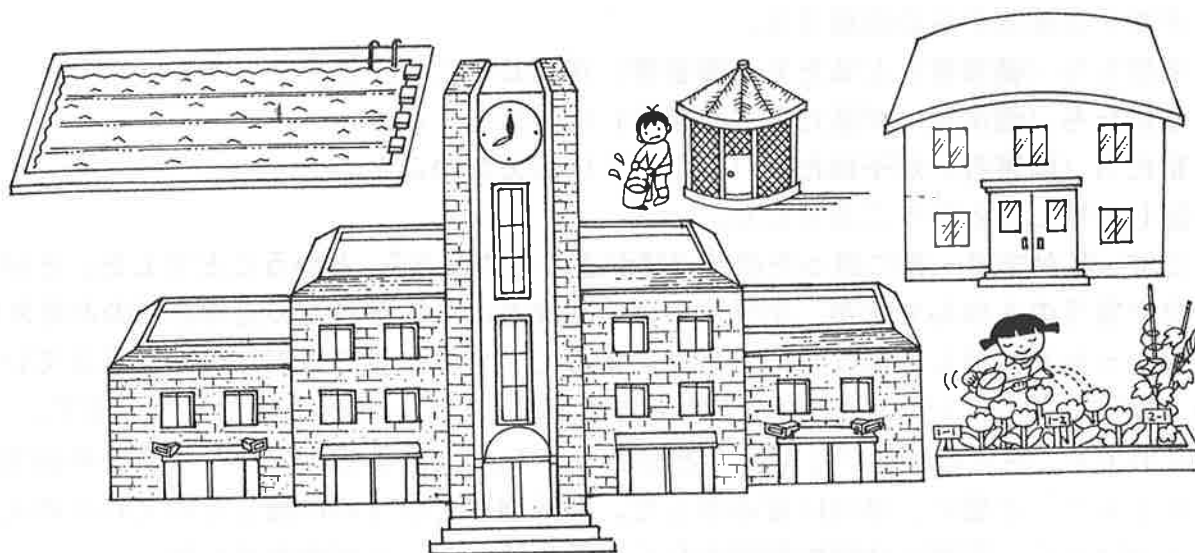
それでも、やるしかないと言うこともあるので、“出来るだけ分かりやすい単語で話すようにしよう”と思い、当日に望みました。大抵物事というのは難しく考えれば考えるほどそうではなく、実際には特に問題もなく講義も終えることが出来ました。

しかし、そこはやはり小学生やってくれました。質問コーナー時に、『おつきの人に質問で

す!』と介助者に言ったり、帰路に付く私の車に近づいて『もう一つ質問があるんですが、どうしてそんなに背もたれが真っ直ぐなんですか?』などと言いました。さすが小学生!目の付け所が違うというかなんというか…。ただ、私自身普段の生活の中で小学生と触れ合う機会が殆ど無いので、とても新鮮な気持ちになり、良い経験になりました。

最後に、私が南小の皆さんに伝えたいこととしてお話ししたのは、私たち障害者もみんなと同じ人間であり、一つの人格を持った人なんだということです。誰しも、周りと違うものを見つければ目は行くし、自分と違うものを見つければ興味だってわきます。それは仕方のないことかも知れません。そんな周りからすればちょっと目立つ存在かも知れない私たちですが、それでも何らみんなと変わらぬ生活を送ることだって出来るし、喜怒哀楽だってあるし、ご飯だって食べます。ただ、私たちが珍しく見られてしまうのは、一般社会がまだまだ私たちを受け入れてくれず、大人でさえ偏見の目で見てくるときもあるからだと思います。まして、そんな大人たちを見て育ってきた子供ならなおさらだと思います。ですが、それは単に社会が与えた先入観であり、社会の中に私たちがもっともっと浸透していけばそんな先入観は無くなっていくものだと私は考えます。これからの私たちの課題として、もっともっと社会に出ていき、子供たちの柔軟な脳に書き込まれた先入観を消しゴムと新しいペンによって、変えていくことだと思います。その為にも、先にあげたような場を沢山持ち、私たち障害者のことを多くの子供たちに伝えていければと思っています。

(小泉)



第6回DPI世界会議 札幌大会報告

第6回DPI世界会議・札幌大会が10月15日～18日まで『全ての障壁を取り除き、違いと権利を祝おう』をスローガンに、109カ国から3000人を超える参加者のもと、札幌の豊平区にある北海道立総合体育センター「きたえーる」で開催されました。

社会の弱い立場にある障害者が中心になって、障害者をめぐる世界の国の、地域の流れを変え、全ての人大切にされる社会、戦争や争いのない社会を作るため、先頭に立っていくこの世界会議は4年に一度開催されます。障害をもつ人々が世界中から集まり、出会い、アイデアを交換しあいます。これらを今後の努力へとつなげていけば、人権のための戦いにおいて、私達は強くなっていくと思います。自分とは違う国々それぞれが、自分達の立場や状況を話し合い、生活状況を改善するために、私達が出来ることについて議論しました。

初日は、開会式、基調講演、シンポジウム、夕方からは歓迎レセプションと盛りだくさんでした。世界会議という、大きな大会ですが、分科会の中身が充実していることは勿論、会場情報も誰にでも解るようになっていて、ボランティアの数も多く、一般、語学、移動、事務局スタッフとジャンパーが色分けしてあって、あの人数の参加者が混乱することなく行動しているのに、ビックリしました。

2日、3日目は「自立生活」「女性障害者」「障害児」「人権」「生命倫理」「条約開発」「アフリカの10年」「労働と社会保障」「障害種別や社会状況を乗り越えた連帯」「アクセス」の10の分科会が午前、午後に400名を超える司会者、発表者が魅力的な内容で討議しました。

私は以下の分科会に参加しました。

16日午前の分科会は【生命倫理「遺伝子学と差別」】

遺伝子操作により障害児を生まない事を選べる社会が、訪れようとしている現実とそれを良しとしている社会の風潮について、遺伝子学者の立場からや、遺伝的な障害を持ちながら、同じ障害を持つ子を育てている当事者の話など、興味深いものがありました。

16日午後の分科会は【自立生活「人権問題として」】

主にアジアの女性障害者差別の現状が報告されました。アジアでは、まだ女性を家事労働の担い手として見ているので、家事の出来ない女性障害者の地位は低いという現状が話されました。

17日午前の分科会は【自立生活「介助サービスなどの支援サービス」】

自立生活運動がどのように障害者運動にプラスの影響を与えたかについて、話されました。また、当事者の支援サービスの少ない地域を支援する事が確認されました。

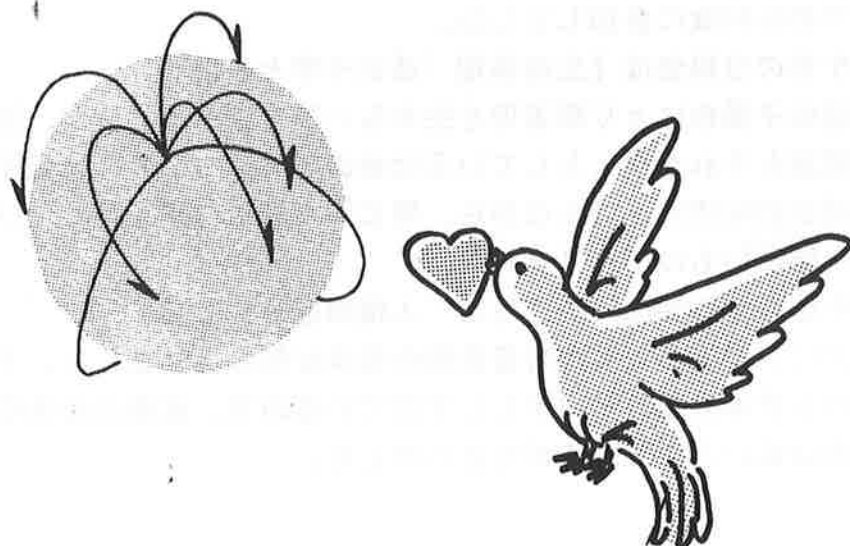
17日午後の分科会は【生命倫理「だれが決定するのか」】

着床前診断の是非について、論議されました。そして、子供を持つことを選択は親が出来るが、障害があろうが、無かろうが生まれてくる子供を親が選択するべきではないと確認しました。

3日目の夜は、地下鉄を使って、CILさっぽろを見学に行きました。地下鉄はどの駅もエレベーターが整備されていました。そして、大通り駅近辺は地下街が発達していました。東西線南南郷13丁目駅から数分の所にある、CILさっぽろは障害者職員の多い活気のある事務所でした。少し離れた所に、スペース・じょいすていっくという第2事務所(会議室)がありました。DPI世界大会に合わせて、ベンチレーターのショールームが開催されていました。ポリウムベンチレーターやバイパップなどの各種ベンチレーターをはじめ、周辺機器、医療物品が一同に展示されており、とても勉強になりました。展示時間を過ぎても、丁寧な説明をして下さった、花田さん、横川さん、お忙しい中ありがとうございました。

そして、最終日はDPI世界会議議事がおこなわれ、世界評議会報告、ブロック報告、各国内会議からの提起、世界評議会からの提起がありました。DPI世界役員選挙も行われ評議員の中より、アジア代表としてヒューマンケア協会の中西正司さんが世界役員、会計として選出されました。午後は来賓挨拶の後、行動計画の採択につづき、札幌宣言が採択されましたが、帰りの飛行機の時間が迫っていたので、心を残しながら帰京しました。

(竹島)



“新連載”

ふとした瞬間…その①

みなさんこんにちは。『今の自分、むかしの自分』をこの紙面に連載中の“こいしん”こと、小泉信治です。時が経つのは早い物で、前回の物を書いてからずいぶんと時が流れてしまいました。ということでとてもとてもお久しぶりです。さて、今回のテーマは…と行きたい所なのですが、ここでとっても残念なお知らせです。皆さまにご好評頂いていた『今の自分、むかしの自分』は、前回を持ちまして終了させて頂くことになりました。というのも、やはり今の自分と昔の自分を比べるのにも正直限界があり、ネタが尽きてしまったのです…(ごめんなさい)。でも、皆さん安心してください。私自身『今の自分、むかしの自分』というテーマはとても気に入っているので、違う者に引き継ぐ予定ですから…。

さて、では私が何を書くかという事です、既にお気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、『ふとした瞬間…』というものを新連載として始めようと考えております。これは、人は誰でも“色んな場面”に遭遇します。それは私自身も例外ではなく、生きていく上で起こり得るであろう色んな場面で、色んな気持ちになるわけです。そんな時に、“ふと”思ったこと、“ふと”感じたこと等を皆さまにお伝え出来ればと思い、新しいペンを持つことになったのです。と、長〜い前置きはこの辺にして、本題に入りたいと思います。

記念すべき第一回目のテーマは“関係”です。一口に“関係”と言っても様々有るのですが(例えば、友達関係、職場関係、雇用関係、恋人関係…etc)、今回は“職場関係”について考えてみたいと思います。

仕事をしていく上でまず大事なことは、周り(職場の人)と上手く関係プレーを取っていくことだと思います。関係プレーを取るということは、周りの人を支え合い、信じ、そして一つの同じ目標に突き進んでいくことを言います。ここで、3つのキーワードが出てきました。ではまず一つ目。“支え合う”このことについて考えてみたいと思います。私が思うに、人というのは一人だけでは生きていくことの出来ない生物だと思います。例えば、“俺は誰の力も借りずに立派に生きている!!”と言う人がいたとします。しかし、

そうは言っても喉が渴けばジュースを買うだろうし、蛇口をひねって水を飲むと思います。では誰がジュースを自販機にセットしたんでしょうか？誰が蛇口から水が出るようにしたんでしょうか？そうです、ジュースが口に入るまでに、水が蛇口から出るまでに、数えきれない人が協力しあっているという過程があるのです。他にも挙げればきりがありません。衣服や食料や住居だってそうなんです。確かに、色んな才能に長けている人で有れば自分の生活に関すること全てをやりこなすこと（これについて“自給自足”と言う表現が正しいのかは定かではないがとりあえず“自給自足”とする）が出来るとも知れませんが現時点で“俺は誰の力も借りずに立派に生きている！！”と言っている人に本当の意味での“自給自足”をしている人はいないと思います。ただ私は、ここで言う“自給自足”を薦めるわけでもなければ、する必要もないと思います。それは、全てを自分でやってしまうと時間がいくらあっても足りないし、どんな人にも得意なことがあって、どんな人にも役割があるからです。ですから、自分に出来ること（役割）を最大限やるのが誰かの支えになると思うし、また誰かが誰かの出来ることをしてくれているお陰で自分は生きていられるんだと思います。つまり“誰かが自分のために何かをしてくれている”のと同時に“自分は誰かのために何かが出来ると”ということになり、この世に必要な人間はいない（当たり前のことですが…）ということになります。話が少しそれてしまいましたが、誰もが仕事をするときには多かれ少なかれ人の力を借りてやっているわけですし、全てを自分一人でやりこなすと言うことはとても困難なことです。ですから、仕事をするうえで“支え合う”事の大切さを理解し、様々な人と助け合いながら、私自身仕事をして行きたいと思っています。

(つづく)

(小泉)



私と障害と家族…その①

皆さまこんにちは、この度連載記事を書くようにとの編集長の鶴の一声に、文才のない私が何を書いたらいいのか頭を悩ませましたが、思案に思案した結果、我が家の恥を書かせてもらうしか無いとの、結論に達しました。読んでください。

私は夫と長男長女の四人家族です。

同い歳の夫は、北海道生まれですが東京に出てきて28年、東京での生活の方が長くなっているのに道産子魂がばりばりで、いつも話を聞かされています。公務員であるとともに、全面的に家事と私の介助とをこなしています。思慮深く、我慢強く、コツコツと物事に取り組む姿はアルコールが入りすぎなければホントにいいひとです。いつも、頭が上がらないのですが、ちと小うるさいのがたまにきずです。何故かという、子供達にとっては、母親が二人いる様なものだと思うことがあるからです。小言は私の役目、父親は泰然自若としていてほしいと言うのですが、夫は馬耳東風、娘には嫌がられているのに何処吹く風と自分のスタンスを貫いています。

長男は高校二年生、受験とは無縁ののんびりとした高校に通っています。小学五年の時家出を執行して、親は探し回ったのですが見つからず、誘拐かと思って警察に連絡、私服刑事が自宅に来て盗聴器を設置する話をしている時に、他の警察官にコンビニから出てくるところを発見され、心臓がキューっとするほどの心配を経験し、中学二年から三年にかけて不登校気味になってこれからどうなるのかハラハラしたりしました。今はのんびりと気ままに、寝ているかゲームかアニメ三昧に見える生活を、送っています。二度と無いセブティーンいい加減に目を覚ませと、おもっている親の気持ちなど知らず好き放題です。

長女は中学三年生、高校受験まただ中の15歳です。わがまま兄ちゃんの陰に隠れてマイペースな性格で、どこか行ける学校があればそれでいいやと思っているのですがどうなることやら…。小うるさい親と神経質な長男の間で、我が家の癒し系キャラとして大きな役割を果たしています。

子供達は、小学校の低学年まではよく家事を手伝ってくれました。介助者を入れる生活になってから、やってくれる人がいるせいかだんだん手伝わなくなってしまい残念です。精神的にも、経済的にも早く自立してほしいと思いますが、のんびり屋の子供達なので、まだまだ時間がかかるんだろうと思っています。

私の進行性の障害がハッキリしていった時と子育てが同じ時期でしたので、障害の受容に時間が掛かりましたし、車椅子の親をもつ子供達は世間に後ろ指をさされないようにと肩に力が入っていて、今思うと結構大変だったと思います。そんなしんどい心を変えるきっかけを作ってくれたのはピア・カウンセリングと安定した介助派遣です。そして、ピア・カウンセリングを学んだ事が、今の子育てにも大きく関わっています。もっと早くピア・カウンセリングと出会っていたら、と思ったり……。過去は振り返らずこれからの生活に生かして行きたいです。 つづく (竹島)

「私が見つけたバリアフリー」～PART2～

季節が変わるのも早いもので、冬も終わろうとしています。
去年の夏は猛暑に見舞われ、大変だったのではないのでしょうか。

さて、みなさんは、旅行などに行かれる時、どのように目的地までお調べになりますか？
私は今回、羽田空港を利用した時に発見したことを交えてお話ししたいと思います。

以前までは、高田馬場からJR山手線で品川まで行き、そこから京浜急行で羽田空港へ行っていました。全部の駅がエスカルしかないため、時間をかけて駅員に行き先を言い目的地まで行っていました。しかし、今回駅員になるべく頼まず楽に行けないものかと思い、色々調べました。

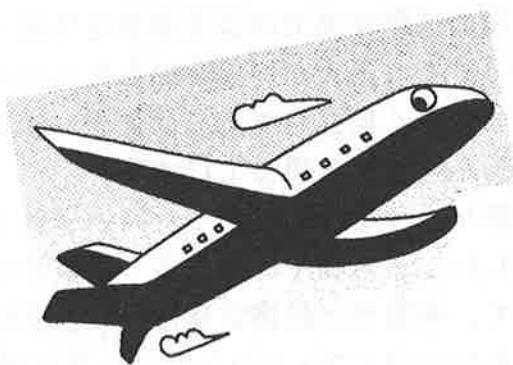
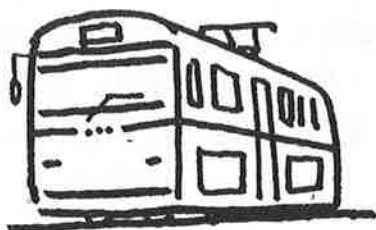
例えばインターネットで情報収集したり、友人に聞いたりなどしました。

何故こういう考えを持ったかと言うと、乗りかえる駅ごとに連絡をしてもらうため駅員に言うわずらわしさ、エスカルなど移動時間がかかるなど不便さを感じたからです。みなさんはそのように思われたり、また感じられたことはないのでしょうか。

調べてみたところ、多少時間はかかりますが楽に行けるルートを見つけました。

それは、西武新宿線の中井駅から都営大江戸線で浜松町、そしてモノレールというルートで羽田空港まで行きました。中井駅だけはエスカルですがその他はエレベーター移動で今までのわずらわしさなどが無く楽に行くことができます。

私がもうひとつ発見したのが、羽田空港には機内用の車椅子の種類が色々あります。例をあげるとリクライニング式やストレッチャー式などです。私が知っている地方の空港はあまり種類がなく、シートベルトが無かったり、ひじかけが低く、座位が保てない人には苦痛ではないかと思えます。ですから、車椅子の種類をもっと各地方にも増やしてもらいたいものです。



(大淵)

私達の目指すもの—介護者の皆さんへ

コーディネーター 馬場 真実

私達「自立生活センター・小平」と特定非営利活動法人「西東京自立支援センター」は、障害者とその運営責任を担っています。

一般社会では、障害者とは能力主義、生産性重視の世の中の価値からするとその枠に入れない人たちであり、障害が重度であればあるほど、生活上のあらゆる義務を強いられないし、それゆえ責任を問われなくて良いという価値観の中で生活しているといってもよいでしょう。これは福祉的観点からすると、ハンディのある人に対する優遇としてとても良い事のように見えますが、言い換えると、社会で暮らす「人」としての権利をないがしろにされているということでもあります。

このような社会構造にあって、私達の組織は、地域で暮らす障害者が自ら運営し、社会人としての当然の権利を得ようと活動しているところです。人が地域で自由に発言したり、自由に行動したり出来るのは、自分の言った事、した事に責任を持つからです。障害があっても自分のことに責任を持ち、自分の将来に夢を描きそして夢を実現したいというのは人間として当然の思いです。

人としての権利

日本国において、すべて国民は公の福祉に反さない限り、個人として尊重されなければなりません。「生命、自由、幸福追求に対する国民の権利について最大の尊重を必要とする」と憲法にうたわれています。

しかしながら、障害者は障害があるということで必要以上の干渉を受け、管理され、制限され、とても個人として尊重されているとはいえない状況の中で生きているのが現状です。社会が障害者に責任を問わない代わりに、個人として尊重されずにいても仕方がないということなのではないでしょうか。社会の障害者に対する配慮として、必要以上の干渉を受し、管理をし、制限をすることが当然としてまかり通っています。

自立生活センターの障害者

自立生活センターは、思想、生活、生命のあらゆる場面で個人として尊重されるべき障害者達が、その当然の権利を獲得するために、さまざまな活動をしているところです。ですから、自立生活センターの運営は障害者にしか出来ません。たとえ、社会経験が少なくても、周囲との関係がうまく取れなくても、たとえ、学歴がなくて、経営のノウハウが判らなくても、たとえ、金銭管理、健康管理など、自己管理が上手に出来なくても、たとえ、出来

ることがほとんどなくても、自立生活センターは、障害者だからこそ運営ができるのです。基本的な人権を自分で守ることの出来る健全者は、自立生活センターの当事者にはなれません。なる必要がないのです。

障害があって自分のことが自分では出来ない障害者が、介護者に介護を依頼し自分の意志の通りに介護をしてもらうことはとても大変な作業です。しかしながら、もっと大変なことは介護者に指示を出したすべての事の責任をその障害者が担うことです。自分のことに責任を持つということは健全者でもなかなか出来るものではありません。むしろ責任を逃れたいと思ったりするものです。しかし、自分の思いの通りに行動できるのは、自分の責任を果たすという約束があるからこそ出来るのです。

自立生活センターの健全者

自立生活センターでは、ヘルパーとしてあるいは職員として多くの健全者が、関わっています。健全者それぞれの思いや、関わるきっかけは様々ですが、自立生活センターの健全者に求められるべきことは「障害者の人権を、個人として尊重し、生命、自由、幸福追求に対する権利を脅かさない」ことです。

たとえ、周囲との関係が上手に取れなくても、たとえ、学歴がなくても、たとえ、運営がうまくいかなかったとしても、たとえ、自己管理が出来なくてもです。これに同意することが、自立生活センターで働く健全者の最低限の条件です。そして、自立生活センターの介護者の仕事とは、「障害者の人権を、個人として尊重し、生命、自由、幸福追求に対する権利を遂行できるようにサポートする」ことです。身体、知的、精神のどの障害があってもです。けして間違っただけいけないことは、「健全者が、障害者を教育、指導するものではない」ということです。人は自分のことは自分で決めるものです。障害者も、自分のことは自分で決めます。自分で決めるからこそ、自分で責任が取れるというものです。

介護者がすべきことは、障害者が事を自分で決めるのに付き合い、また決めたことに付き合うことです。決めた結果が良くても悪くてもかまわないのです。結果を良くしようということも介護者はしなくて良いのです。このような場合には先に自立した先輩の障害者が情報提供として過ちがあれば訂正することもあります。しかし生活するということは失敗をしながら自分で考えていくことでもあります。自立生活センターの介護者はそういった障害者の生活にかかわっていくのが仕事です。

そうはいっても事によっては、あるいは障害者によっては自分で決めることが出来ない場合もあるかもしれません。障害者によっては自分で決められない(決めたことがないといこともあります)かもしれませんが、そのような場合は、介護者は障害者が自分で決められるようになるまで気長に付き合うことも要求されます。

人は自分で考え、反省し、挑戦し育っていきます。自立生活というのは、完璧に暮らすことではなく、誰からの抑圧もなく人として成長していける場であると考えます。それは健全者であっても同じです。

違うもの同士の信頼関係

障害者も健常者もこれまで育ってきた環境によって、様々な考え方、受け取り方があり、悩みがあるはずです。生まれつきの障害がある車椅子生活の人に、「人にいろいろやってもらうのは不便でしょう？」と聞いた介護者がいました。「生まれつきだから、不便と思った事はないよ」との返事でした。また、事故で障害を持ち車椅子生活をしているいわゆる中途障害の人が「夢で歩いていたんだ。私歩けるじゃないって思って泣いている夢だった。」といていたのを聞いたことがあります。同じできないという事でも立場が違っていると、受け取り方も違います。出来ないことが当たり前だったり、非常につらいことだったりするので。大事なことは、障害が何かということより、今という時を何に向かってどう過ごそうとしているかです。介護者も、それまでの過ごし方、育ち方によってネガティブ思考の人、ポジティブ思考の人がいるわけです。

ひとそれぞれにみんな違う過去があり、違う人生観があり、価値観があります。この違うもの同士が同じ時間を共にしてそれぞれの生活や考え方に関わっていきます。このような中でお互いに安心できる関係を作るとはとても重要です。違うものが同じになるということは不可能ですが、違うことを認め合うことができ、お互いに尊敬しあえたらとても楽であり、お互いに安心です。

コミュニケーションを正しくとるのは、かなり難しいことです。気を遣うなら介護者より犬やサルの方が楽ということもあるかもしれません。しかし、介護者はロボットでもなく、サルでもなく、犬でもなく人間です。それは、介護という事柄に心を乗せることができるということです。心を乗せて相手を抑圧せず、人権を守り、「生命、自由、幸福追求に対する国民の権利について最大の尊重」を配慮できるのです。

その事により、障害者が地域で責任を担いながら自分らしく生きていく、またどんなに重度の障害があっても、ここにいても良いと実感でき、他の人と同じように自分の将来に夢を持てる環境ができるのだと思います。

自立生活センターは、障害者も健常者も共に成長し、互いに尊敬し、いっしょに地域で生きていこうとするところです。このことを心に留めて理想と現実の矛盾に対し果敢に向かっていってください。

2003. 3. 15

NEW FACE紹介

ここでは昨年から、新しくCIL小平のスタッフとなった3人を紹介します。

CIL小平共々、みなさまどうぞよろしくお願ひします。

その①…小林 優美

みなさまこんにちは。こんばんは。はじめまして??小林優美と申します。時々、「シヨウリン」とか「ユミ」とか呼ぶ方がいらっしゃいますが、違います。「コバヤシマサミ」でございます。。ご注意を…。

1978年5月31日生まれ。ふたご座のA型。趣味は読書と映画鑑賞という、どこにでもいそうなタイプの人間です。ちなみに女性です。ウキヤ☆

センターの介護者登録をしたのがおととしの夏。当時はまだ学生でしたので、登録はしていたものの、介護に入ることがあまりできず、みなさまにはご迷惑をおかけしていました。助けていただいた方々、ありがとうございました。大学卒業と同時に、介護に入る日数を少しずつ増やし、今年4月から、センターの職員としてお世話になることとなりました。あれやこれやという間にいろいろなことが進んでいっている状態で、私の中でうまく整理がついていない部分が多々あるのですが、周囲の方々のご指導のもと、何とかがんばってやっていこうと思っております。どうぞ心温かく、末永く見守ってやってくださいませ。よろしくお願ひいたします。

『ささやかだけれど、役に立つこと』これは私の好きな作家が、彼の好きな外国人作家の本のタイトルの翻訳です。原題は『小さな、良きもの』その話の中での「小さな、良きもの」は「焼き立てのパン」を指しています。もし興味があれば、一度読んでみてください☆そうすれば、「焼き立てのパン」が、どうして「小さな、良きもの」になり得たかが、きっとわかっていただけると思います。

『ささやかだけれど、役に立つこと』これが、今の私のモットーです。人の人生を左右するような、何か特別に大きなことがしたいというわけではありません。単純に、人からされて嬉しいこと、幸せなこと、助かることを、相手にしたいなあ…と思っています。それで相手が喜んでくれたら、救われたら、私自身が、とつてもとつても嬉しいのです。だから普通に生活をしていく中で、自然に、素直に、そういうことができる人間になればいいなあ…と思っています。これはこの仕事に対しても、同じように持っている考え。相手に負担のない介護、というものを心がけていきたいです。「自然なサポート力」これを身につけるには時間もたくさんかかるでしょうし、自分なりの努力も必要になってくると思います。でもいつか、その「努力」が「実力」にかわっていくことを夢見て、日々の時間を大事に大事にしていきたいと思っています。

『ささやかだけれど、役に立つこと』この言葉をいつまでも大切に、心に持ち続けていきたいと思っています…。

☆PEACE☆

その②…宮下 勇一

…………… どうも、宮下勇一です。職員としては新人ですが、介護者としてはそこそこ長いので、顔を合わせたことのある人は多いかと思えます。まだな人ははじめまして、よろしくお願ひします。ご無沙汰な人、お元気ですか？ これからもよろしくです。いつも会っている人は……………まあいっか。

私は知る人ぞ知る、宮下一族が産んだふたり目の宮下なのですが、最初の宮下のことについては、できれば何も聞かないでください。今となっては昔のはなしです。すべては過ぎ去ったことです。ご存知の方は、ここにもうひとりの宮下がいたこと、精一杯に生き、そして、満足して新しい世界へと飛び立っていったことを、ときどき思い出してあげてください。できれば、よい思い出とともに。それが過去に存在した人間に対する唯一の繋がりであり、終結した人間関係における救済であり、新しい出会いへの希望のように思います。

私、新しい宮下は平成14年の6月に当CIL・小平の介護職員として採用されました。それ以前は2年とちょい、いち介護者としてせつせとクロマグロのように介護に従事し、利用者の方さんを含めたくさんの人と関わり、たくさんのことを学ばせていただきました。もちろん楽しいことばかりではありませんでしたが、その経験が確実に今の私を形作っています。しかしながら、3年近く介護に携わっても自分がよい介護者になれたかどうかはわかりません。それは私が関わる人にそれぞれに判断してもらうしかないことで、私は、よりよい自分になるための努力をするほかありません。完成なく成長しつづけることを、私は強く望みます。それも養殖ではなく、脂ののった天然物で。いつまでもぴちぴちの黒光りで。7つの海を股にかけて。そしてエラ呼吸で。

さて、職員となったことで環境は様々な面で変化しました。そりゃもう、いろいろです。仕事の内容も、介護はもちろん、事務にバイク便、新人研修、ドア修理から皿洗いにいたるまで何でもやります。何でも屋というのはハードボイルド的なものに個人的にカテゴリーズされるので、それなりに楽しんでいきます。ただの丁稚奉公のような気もしますがね。

え？ まだページに余白がある？ そうですね。では、こんな話をしましょう。

あるところに、暇をもてあましていた男がいました。男は、ほんの気まぐれにベランダに花の種を蒔きました。ジニアという秋咲きの花です。ときどき思い出したように水を撒いただけで種は芽吹き、つぼみをつけ、秋の初めには小さなオレンジ色の花が咲きました。小さな鉢が3個だけのささやかな花畑です。男は自分のしたことに結果が出て、咲いた花ほどの小さな満足を得ました。やがて冬がきて、花は寒さに身をこわばらせながら枯れてしまいましたが、それはどうしようもないことでした。冬はかならず訪れるものだし、花はいつかは枯れるものです。男の花に対する興味はそこですっかり失われていたのですが、春、男がふとベランダ出ると、ずっと不吉な茶色だった鉢の土に、小さな緑の点が生まれていました。男は雑草だろうとほうっておいたのですが、いつのまにか緑は広がり、やがて、去年よりもたくさんのオレンジ色の花が咲いたのです。

ってな感じでおわりです。宮下でした。

その③…村上 潤子

初めまして。村上潤子です。昨年5月からこちらで介護の仕事を始めました。年の分だけ(!)長~い道のりを経て、縁あってかここに辿り着きました。

きっかけ：思えばきっかけは、3年前に実家の祖母が家の中で転倒したこともかもしれません。それからの入院、転院、施設入所。大変ながらも、これまで無縁だった世界が何だか面白そうに感じました。それでも自分がこういう分野に関わってみようなどとは、まだとても思えませんでした。「大変そう。みんなよくやるなあ」祖母に面会に行く度、思ったことです。

忘れた頃に：そんなことは忘れかけていた1年後、屋久島で働いた私は、休日を地元の人たちとの交流にあてたいと考えていました。情報収集に訪ねた町役場で紹介されたのが、立ち上げたばかり障害者の活動拠点『じゃがいものおうち』。「まずは障害者に慣れるところから」と言っていたら、週1日通うことに。お茶飲みと話がほとんどでしたが、本当に何も出来なかったあの時間あったの今だと思います。自分は無力だなと感じる感覚が、必ずしも悪いものではなく、爽やかな気分さえなったのが不思議でした。この活動拠点が「いつでも誰でもまあ寄って行って、お茶飲んで行って」という雰囲気。障害者の活動拠点でもあるけれども、障害者を取りまく全てのひと(つまり誰でも)と共にある日常、というところがとてもすてきでした。

上京：事務の仕事が長かった私は、手に職とまではいなくても「私は今、こんなことをやっているの」と言えるものがほしいと思ってきました。島での体験もあり、その後ホームヘルパーの講習に。ところがいざ仕事を探し始めてみると、地元では経験者と介護福祉士の募集がほとんど。ならばまずは仕事数のある首都圏で経験を積もう、と上京したわけです。東京はかつて社会人をスタートした場所。ですが、満員電車、物の多さ、人の多さにすっかり参ってしまい、退散したという前歴があるだけにいまだに不安が…。無理をしないよう心がけています。

この仕事、エトセトラ：この仕事で気に入っているのは、自分にごまかしがきかないというところです。これまでずっと、「何となく」で来られてしまった私には、逃げないで自分と正面から向き合うことが必要でした。介護者としては、マイペース、スローペースなので、気が利かなすぎでは？と思います。性格は…あんたはどうしてそう冷めてるの！と言われます。が、心は温かいつもり。実家は秋田、海あり山あり、食べ物はおいしい、寒いけれどいい所です。日照時間の短い土地の影響か、今でも晴れて、洗濯物が乾けばそれだけで幸せです。最近、事務所でも仕事をしています。まだまだ慣れないことばかり。でも持ち前のスローペースで精一杯なので、ご了承ください。よろしく願いいたします。

p s : 前途の祖母は最近退所、在宅介護が始まりました。課題がいっぱいです。

介助者紹介

今回は3人の介助者をご紹介します。

① 岡田 雷太さん

はあつくしよいっ！インフルエンザの猛攻をどうにか防いだと思ったら、お次は花粉の季節。悲しくもないのに涙目になってる方々を見かけると、なんだか切なくなるのはきっと旅立ちの季節だから？あの頃の僕はまだ…。はっ！

わ、私生まれは大阪育ちは東京、根っからのシティ派おやぢの岡田雷太と申す者でございます。当年にとって32歳(精神年齢29~36…推定)の男盛り、そろそろいい油も浮いてきそうなお年頃。現在1歳児の父親なんてのもやってたりします。父親といってもある時は一緒に遊んで笑って、又ある時は悪戯して笑ってるだけって話もありますが…。

さて、介護を始めて早3年と半分位、色々な出会い、そして別れ(前号からパクったわけではないのよ)がありました、とにかくあつと言う間もなく過ぎてしまった感じです。特に二代目が生まれてから今までなんて音速、マッハですよ。で、思う事は、なんでもとにかく「やらないとできない」って事。「やればできる」とはよく言いますが、実際何かしようと思っても、行動に移さない限り何も出来ないということを実身にしみて感じます。だからといって無理してでも何かをしなくちゃいけない！という性格でもない私は、日々飄々と週4枠の介護、そして子供にもてあそばれつつ毎日を日々是好日、笑って終わればオッケー、てな感じで過ごしているわけでございますですよ。(文字数稼いでいるわけでは決してない)

そんな毎日を送りつつ、私には実はもう一つ別の顔があったりします。職場関係者の中にはご存知の方もいらっしゃると思いますが、いわゆる世間でいうところのミュージシャンてえやつで、ここ10年ほど作曲、アレンジ、演奏(主にギター)等をしています。仕事は個人で動く事が多く、自分のペースで自宅で仕事が出来たり、それこそ色々な人との出会いがあるので自由で楽しい反面、150%の自己責任、締め切り前の徹夜作業、不況(これが一番大きい!)等現実はなかなかきびすいものがあるんですよ。

あとは今ミュージシャン仲間『バリケーターズ』ってバンドもやっています。何かある時は事務所の掲示板に告知が貼ってあるので見てみてください。ホームページもありますのでそちらもよろしく！

あつ、介護についてもなんか書かなきゃですね、編集長。えっと…、自分なりに気をつけていることと言えば、とにかく視野を広く持ち、色々な物事に興味を持つ事で、懐を深く。これを自然に楽しみながら、時には「やらないと出来ないよ」と自分自身に語りかけちゃったりして、毎日の生活の中で探求してゆく姿勢を持つよう心がけています。

何だか大仰になって何言ってるか解りにくくなってしまいました、要するに私は好奇心旺

盛なおやぢってことですね…。

さあて、そろそろページも埋まってきた事だし唐突に、締めさせていただきます！いまだお会いしたことの無い方々も含めまして、これからも時の流れの許す限り、皆様どうかひとつよろしく願いたします。

② 村尾 栄美さん

みなさん、こんにちは！介護者の村尾栄美です。春の香りが日に日に増してきている今日この頃、皆さんいかがお過ごしですか？私が介護という仕事に就いてからこの11月で1年が経ちました。今まで、一般企業で働いたり、子供たちに英会話を教えたりと、いろいろな職に就いてきましたが、この介護の仕事ほど、ストレスを感じずにやれた仕事はありませんでした。この1年間、とても楽しく、またいろんな事を考えさせられながら働いてまいりました。今まで全く畑違いの仕事をしてきた私が、なぜ障害者の介助という仕事に就いたのか？これは、私にとっては出会うべくして出会った仕事であり、小さい頃から、いずれ障害を持った人たちにかかわる仕事をするだろうとわかっていた事なのです。私がそう感じ始めた理由は、なんと言っても父の影響なくして語ることは出来ないでしょう。という事で、少し私の父をご紹介します。

私の父は、両耳が全く聞こえず、両眼も網膜色素変成症という難病を患っている障害者です。耳は、彼が10代の時にかかってしまった結核で、その時打たれた薬の副作用で両耳の神経がダメになり徐々に聞こえなくなりました。まだかろうじて視力があるので見えています。通常100%ある視野が彼にはもう2%しかありません。来年還暦を迎えますが、失聴と目が見えにくい所を除けばいたって健康な人です。まだ介助者も必要なく生活しています。父が聴覚障害者だという話をすると、「じゃ、手話使ってるの？」とよく聞かれますが、使っていません。彼は、人の口の動きを読んで会話をします。家族だけがわかる手話はいくつかありますが、彼自身、手話を使う必要性を感じていない様です。私は生まれてこのかた、母を含めて誰からも、父が耳が聞えないという事を聞いたことがありません。ただ、2・3歳ぐらいの時にはすでに、私のお父さんは、いわゆる健常者とは違った所があると自覚していた様です。私は今まで、父が障害者という事を恥じたり、嫌だなと思った事は一度もありません。「うちのお父さんはただ、耳が聞えない人なんだ」という事実しか受け止めてきませんでした。父の障害に対しての苦しみ、悲しみ、怒りなどの感情は、たとえ家族であっても、全て同じ様に感じている事は不可能だからです。これは、この介護の仕事をしていく上で、とても役に立っている事の一つです。家族の間では特に自分の意見を押し付けがちなになりますが、そう言った行動が全て相手の為になっているかという、そうではないという事を、嫌という程父を通して経験してきました。私も長年、アトピーを患っていたのでこのかゆさは私にしかわかるまい！！と断言できます。

この仕事を通して益々、相手を決めつける事、自分の思いを押し付ける事は、結局は、

その相手を追いつめる結果になるのではないだろうかと感じずにはいられない今日この頃です。

それではみなさん、まだまだ話したい事はたくさんありますが、この辺で終わります。読んでくれてありがとうございます！！

③ 杉山 暁

時の流れも過ぎさるのは早いもので、私もあっという間にこの仕事をして1年半が経とうとしています。皆様いつもお世話になっております。杉山暁と申します。26歳です。

私は幼少の頃より体が弱く、周りからは「弱い」というイメージが強かったように思われます。ですから、介護の仕事をしているのは信じられないようで、「介護されてるのでは??」と思われてしまいます。(笑)

「失礼。」と思いながらも、実は私自身も未だに不思議な位です。この自立生活という大きな世界で、さまざまな利用者の方々と交流している自分。介護者としてこんな私が日々生活を共にさせてもらって申し訳ない程なのです。利用者の方々のお役に立たせてもらいたいと思いながらも、その思いが先立ち過ぎ、ご迷惑をかけている次第であります。いつもごめんなさい。

しかし、こんな不器用な私が、ここまで来れたのは、皆様のお力と共に利用者の方々が私の「鏡」となったからであります。この鏡が私に強い力を与えて下さいました。利用者の方々の全てに於き、私の姿が映しだされ、気づき、気づかされるのです。それは、今までの自己を見つめ直すと言う大きなチャンスを作ってくれました。そして、新たな自分自身が映しだされ、多くの事を学ばせてもらっているように思えます。これは、私に「人間としての確立」に結びつき影響を与えてくれました。先程も申しましたが、私が磨かされてもらえるのは、利用者の方々のおかげであり、また声をかけて下さる皆様のおかげである事に感謝の思いでいっぱいあります。

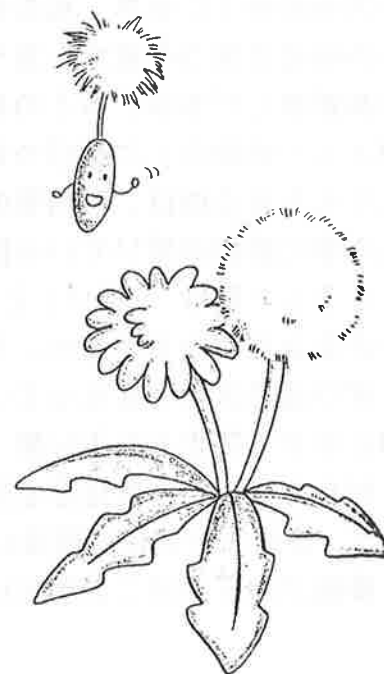
こうして私は、「弱い」というイメージから、今までは「遅い」という言葉も頂く事ができるようになりました。それは、私にとり何よりも喜ばしい事でもあります。自分が少しずつ成長させてもらっているからです。ですから、私はこの鏡となる利用者の方々を大切にさせて頂きと心より願っています。私の心の磨き場とし、光輝き、輝かせていただきながらよりよい自立生活を送らせてもらえるようにこれからも歩いていけたらと思っています。まだまだ人生経験浅い私ですが、今後もよろしくご指導の程、皆様お願い致します。

春風が漂う今日この頃ではございますが、皆様、お体にはお気を付けてお過ごし下さい。

《C I L小平 活動報告： 2002年8月～2003年1月》

2002年8月

- 1日(木) ピアカン・I L P会議
- 2日(金) 報告・検討会議
- 7日(水) 新人介助者研修(講義)
個別I L P(山寄)
- 8日(木) 新人介助者研修(実技)
ピアカン・I L P会議
- 9日(金) 事務局会議
報告・検討会議
- 12日(月) 個別I L P(川元)
- 14日(水) 個別I L P(山寄)
- 15日(木) ピアカン・I L P会議
個別I L P(川元・山寄)
- 16日(金) 報告・検討会議
- 20日(火) 利用者交流会
- 22日(木) ピアカン・I L P会議
個別I L P(川元・竹島)
- 23日(金) 報告・検討会議
- 28日(水) 個別I L P(山寄)
- 29日(木) 単発I Lプログラム“カラオケ”
- 30日(金) 報告・検討会議



2002年9月

- 2日(月) 個別ILP(川元)
- 3日(火) 個別ILP(川元)
個別ILP(山嵯)
- 4日(水) 長期ピア・カウンセリング講座 主催/ヒューマンケア協会(山嵯)
- 5日(木) ピアカン・ILP会議
- 6日(金) 報告・検討会議
- 6日(金)
～7日(土) ILPリーダーズワークショップ(山嵯)
- 10日(火) 介助者研修(講義)
個別ILP(山嵯)
- 11日(水) 長期ピア・カウンセリング講座 主催/ヒューマンケア協会(山嵯)
- 12日(木) ピアカン・ILP会議
介助者研修(実技)
- 13日(金) 事務局会議
報告・検討会議
- 17日(火) 利用者交流会
- 18日(水) 長期ピア・カウンセリング講座 主催/ヒューマンケア協会(山嵯)
- 19日(木) ピアカン・ILP会議
- 20日(金) 報告・検討会議
- 24日(火) 個別ILP(竹島)
- 25日(水) 長期ピア・カウンセリング講座 主催/ヒューマンケア協会(山嵯)
利用者向け支援費制度説明会
- 26日(木) ピアカン・ILP会議
個別ILP(竹島)
- 27日(金) 報告・検討会議
- 28日(土)
～29日(日) CIL・小平職員研修旅行

2002年10月

- 1日(火) 東京都交渉(小泉・山崎)
- 2日(水) 長期ピア・カウンセリング講座 主催/八王子ヒューマンケア協会(山崎)
- 3日(木) ピアカンILP会議
個別ILP(山崎)
- 4日(金) 報告・検討会議
- 7日(月) 小平福祉園交流会
- 8日(火) 小金井南小学校講演(小泉・竹島・大淵・山崎)
- 9日(水) 個別ILP(川元)
個別ILP(山崎)
- 10日(木) ピアカンILP会議
個別ILP(竹島)
- 11日(金) 事務局会議
報告・検討会議
- 15日(月)
~18日(金) 第6回DPI世界会議札幌大会(小泉・竹島・馬場)
- 17日(木) ピアカンILP会議
個別ILP(山崎)
- 18日(金) 報告・検討会議
- 21日(月) 通信会議
個別ILP(山崎)
- 22日(火) 個別ILP(山崎)
- 23日(水) 長期ピア・カウンセリング講座 主催/八王子ヒューマンケア協会(山崎)
- 24日(木) ピアカンILP会議
個別ILP(山崎)
- 25日(金) 報告・検討会議
- 26日(土) 小平の福祉をすすめる会(小泉)
- 29日(火) 利用者交流会
- 31日(木) ピアカンILP会議

2002年11月

- 1日(金) 報告検討会議
- 5日(火) 個別ILP(山嵯)
- 6日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『ヒューマンケア協会』(山嵯)
- 7日(木) 個別ILP(竹島)
- 8日(金) 事務局会議 報告検討会議
赤い羽募金活動(大淵・山嵯)
- 11日(月) 東村山市交渉(川元・山嵯)
- 11日(月)
～13日(水) ケアマネージャー研修(小泉)
- 13日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『ヒューマンケア協会』(山嵯)
- 14日(木) ピアカン・ILP会議
個別ILP(川元)
東村山第2中学校講義(小泉)
JIL事務局ピアカン打ち合わせ(竹島・大淵)
- 15日(金) 報告検討会議
介助者新人研修(講義)
- 18日(月) 介助者新人研修(実技)

- 18日(月)
～19日(火) ピア・カウンセリング委員会(大淵)
- 19日(火) 利用者交流会
- 20日(水) ピア・カウンセリング長期講座／主催『ヒューマンケア協会』(山嵯)
- 21日(木) ピアカン・ILP会議
個別ILP(竹島)
- 22日(金) 報告検討会議
- 25日(月) 新人介助者(一年未満)研修会議
- 26日(火)
～29日(金) 空白県研修(川元・山嵯・馬場)
- 29日(金) 報告検討会議

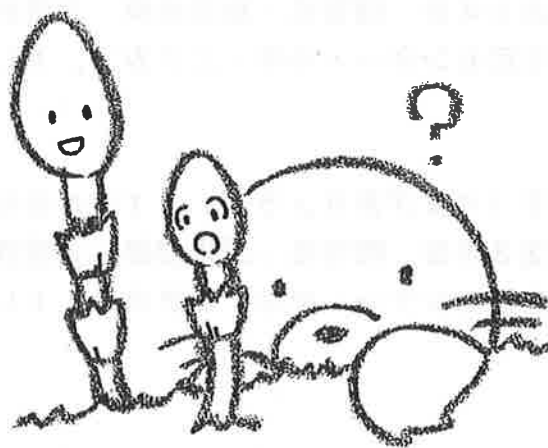
2002年12月

- 2日(月)
～4日(水) ピア・カウンセリング集中講座
4日(水) 個別ILP(山寄)
5日(木) ピアカン・ILP会議
6日(金) 報告検討会議
6日(金)
～8日(日) ピア・カウンセリング集中講座講師/主催『CIL松戸』(大淵)
10日(火) 個別ILP(川元・山寄)
11日(水) ピア・カウンセリング長期講座/主催『ヒューマンケア協会』(山寄)
11日(水)
～12日(木) 介助者育成研修講師/鹿児島(馬場・小林)
12日(木) ピアカン・ILP会議
個別ILP(川元・竹島)
13日(金) 事務局会議
報告検討会議
18日(水) 単発ILプログラム『クリスマスパーティー』
20日(金) 報告検討会議
24日(火) ピアカン・ILP会議
27日(金) 報告検討会議
CIL・小平忘年会



2003年1月

- 7日(火)ピアカン・ILP会議
- 7日(火)
 - ～8日(水)障害者ケアマネージャー研修／主催『東京都』(小泉)
- 10日(金)虐待防止セミナー／主催『自立生活センター・小平』
- 14日(火)交渉：厚生労働省(川元・小泉・竹島・大淵・山嵯)
- 15日(水)交渉：厚生労働省(川元)
- 16日(木)抗議行動：厚生労働省(川元・竹島・大淵・山嵯)
- 17日(金)報告検討会議
- 21日(火)抗議行動：厚生労働省(川元・竹島・大淵・山嵯)
- 23日(木)交渉・抗議行動：厚生労働省(川元・小泉・竹島・大淵・山嵯)
- 24日(金)報告検討会議
- 27日(月)交渉：厚生労働省(川元・山嵯)
- 28日(火)支援費緊急報告集会(川元・小泉・大淵・山嵯)
- 30日(木)ピアカン・ILP会議
- 31日(金)報告検討会議



障害スタッフ プロフィール

CIL・小平のスタッフ、そして今回の通信に登場された障害者の方のプロフィールを紹介します。

川元恭子（かわもときょうこ） 1958年4月26日生まれ（44歳）出身地：香川県
自立生活25年目 障害名：筋ジストロフィー 介護派遣時間数：週135時間
現自立生活センター・小平：代表

小泉信治（こいずみしんじ） 1977年10月13日生まれ（25歳）出身地：東京都
自立生活4年目 障害名：ウエルドニッヒホフマン病 介護派遣時間数：1日24時間
施設歴：19年 現自立生活センター・小平：事務局長

竹島けい子（たけしまけいこ） 1955年9月1日生まれ（47歳）出身地：東京都
夫、子供と共に、家族生活を送っている。 障害名：筋ジストロフィー
介護派遣時間数：週40時間 現自立生活センター・小平：ピアカン、IL、相談担当

大淵由理子（おおぶちゆりこ） 1971年3月17日生まれ（32歳）出身地：埼玉県
自立生活5年目 障害名：脳性麻痺 介護派遣時間数：1日24時間 施設歴：12年
現自立生活センター・小平：ピアカン、IL、相談担当

山崎涼子（やまざきりょうこ） 1969年6月25日生まれ（33歳）出身地：東京都
自立生活3年目 障害名：頸椎損傷 介護派遣時間数：1日14時間
現自立生活センター・小平：ピアカン、IL、相談担当

会員募集のお知らせ

ならびに平成15年度会費納入のお願い

各サービスを利用したい方、スタッフとしてサービスを提供したい方は、会員制になっておりますので下記の要領で会員になる手続きをして下さい。

また、はがきでもお知らせしましたが、すでに会員になられている方は、今年度の会費をお支払い頂きますようよろしくお願いいたします。

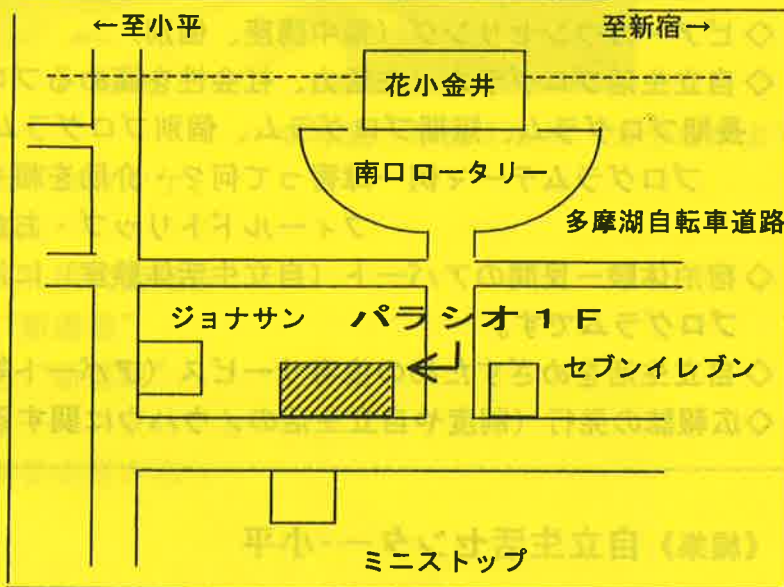
※会員は以下の2種類です

1. 正会員	2. 賛助会員
小平市とその周辺にお住まいで、サービスを利用、または提供される方	「自立生活センター・小平」の趣旨に賛同し、資金的援助をしてくださる方
会費：4,200円(／年)	会費：2,000円(／年)
振込先 三井住友銀行(前さくら銀行)、花小金井支店 普通 6487824 自立生活センター小平	

編集後記

2003年もあっという間に3ヶ月が過ぎてしまいましたが、皆さまいかがお過ごしですか?今年支援費も始まるということはどうなることかと思っていた矢先に厚生労働省の上限問題…。鼻水も凍るようなあの寒さの中、抗議行動等に参加された皆さま、本当に、本当におつかれさまでした。さてさて、今年はどうなることやら…。皆さまにとって、素敵な一年になりますように。
 小泉

C I L ・ 小平の地図



サービスのご案内

24時間、365日介助派遣サービス

近隣の8市にまたがって身体障害者、知的障害者、精神障害者にサービスを提供しています。(初めてサービスを利用する場合は、利用規約等について事前に説明する場を設けさせていただきます。)

- ・介助内容 ◇家事一般 ◇食事 ◇排泄 ◇入浴 ◇着替え ◇体位交換 ◇外出
- ・利用料金 …その他必要な介助をいたします。

平日	9:00~17:00	¥1,200/時
	17:00~9:00	¥1,400/時
	19:00~9:00	¥1,000/時
土・日・祝日		¥1,400/時

※上記いずれも1時間あたり50円の事務経費を負担していただきます。

※その他、介助内容により金額が変わる場合もありますのでご相談下さい。

障害者生活支援事業サービス

◇介助制度、手当、住宅改造、生活保護などの制度利用の申請のサポートならびに生活に関わるあらゆる相談をお受けします。

- ・電話相談：365日、9時~22時 ・面接相談：月~金、10時~17時

◇ピア・カウンセリング(集中講座、個別)

◇自立生活プログラム(生活力、社会性を高めるプログラム)

長期プログラム、短期プログラム、個別プログラム、単発プログラム

プログラムテーマ例…障害って何?・介助を頼もう(介助者との関係)・制度学習
フィールドトリップ・お金の管理・調理実習 …など

◇宿泊体験—民間のアパート(自立生活体験室)に泊まって、自立生活を体験するプログラムです。

◇自立生活をめざすための住宅サービス(アパート等の住居の確保)

◇広報誌の発行(制度や自立生活のノウハウに関する情報提供、情報交換)

《編集》自立生活センター・小平

〒187-0003 東京都小平市花小金井南町
1-26-30、パラシオ1F
TEL/0424-67-7235、FAX/0424-67-7335
E-MAIL: cilkodaira3@hotmail.com

《発行所》

障害者団体定期刊行物協会
東京都世田谷区砧6-26-21
(定価 100円)